

4. 弘前大学医学部 (国立) School of Medicine, Hirosaki University

<http://www.hirosaki-u.ac.jp/>

〒036-8562 青森県弘前市在府町 5 番地

電話0172-33-5111(代)

FAX0172-39-5205

e-mail : jm5194@cc.hirosaki-u.ac.jp

教養課程

〒036-8560 青森県弘前市文京町 1 番地

電話0172-36-2111(代)

専門・教養課程所在地間の最寄交通機関による所要時間 約30分

1. カリキュラム全般について

A. 一般教育（教養）と専門教育との関係：

- 1) 学則上は一般教育（教養）部門を独立して設けている。
- 2) 一般教育（教養）の学習は1、2年生のみで行われる。
- 3) 専門教育（準備教育は除く）の学習は1年生から開始する。

B. 教授会は一般教育（教養）にはない。

C. 学生や教員や地域住民などに対し、医学部・医科大学としての一般目標や理念が印刷物や看板・ホームページなどのメディアで示されている。

D. 学生や教員が学習内容を予め知ることができるように、授業科目の学習目標（一般目標や行動目標）、授業内容、担当者などを印刷物（シラバス）で授業計画 すべて示してあり、その印刷物を授業計画という。

E. 4年生大学既卒者（学士編入生）は卒業学部にかかわらず、すべて3年生に編入する。

編入生の編入時期はすべて4月である。

F. 1年生の入学時オリエンテーションは1日間行いが合宿ではない。

G. Early Exposure（医学教育の早い時期に医学・医療の場に接し動機づけを試みる教育）を行っている学年は1年生である。

その期間と内容：1年生：5日間：養護施設、医療機関等での体験学習

H. PBL/チュートリアル（小グループで行う問題解決型学習）が導入されている。コアタイムの時間は3年生は、平均して週4時間×年間30回である。

自習用に割り当てられている時間は3年生は、平均して週10時間×年間30回である。

チューターは主として基礎医学系と臨床医学系の教員が行う。

チューター養成のためのトレーニングプログラムや講習会などが行われている。

I. 細胞・組織レベル、ないしは臓器系統別の統合カリキュラムをすべてにわたり採用している。

J. 平成17年以降、大幅なカリキュラム改訂は、行われていない。なお、現行カリキュラムの特色は下記のとおりである。

- ・基本的に医学教育モデル・コア・カリキュラムガイドラインに沿うかたちとしている。
- ・基礎医学と臨床医学を関連づける統合的なカリキュラムとしている。
- ・臨床実習を効果的に学習するために実際の診療に携わる診療参加型実習を6年次に取り入れた。
- ・医学教育の多様なニーズに対応できるように「発展科目」を設置した。

K. 今後のカリキュラム改訂は平成21年を目途に予定している。そのねらいは下記のとおりである。

- ・通常入学者と編入学者との無理のないカリキュラムの融合
- ・到達目標の設定
- ・一般教養科目の見直し

L. 現在学内で、医学教育について検討されている事項は下記の点である。

特になし。

2. 選択制について

専門教科について選択制を採用してはいない

3. 一般教育（教養）について

- A. 医学部医学科以外の学部や学科のある大学に伺います。
一般教育（教養）の授業は他学部（他学科）の学生と一部が一緒である。
- B. 他大学との単位互換について認めている。
- D. 一般教育（教養）部門では一部が選択科目で、それは一般教育（教養）の約53%である。
- E. 平成19年新生で、高等学校などで「生物」を履修していない学生の数は調査していないのでわからない。
「生物」を履修しなかった学生に対して特別に対応してはいない。
- F. 平成19年新生にはセンター試験が導入されていた。
入学者のうち「生物」を選択していた学生は約40%であった。

4. 基礎医学教室ないしは社会医学教室（研究室）配属について

- A. 学生が一時期、基礎医学教室ないしは社会医学教室（研究室）に配属されるシステムがあり、希望者のみが
3年生の時に平均して1週18時間×15週間配属される。

5. 臨床実習（外来実習、BSL、クリニカル・クラークシップを含む）について

- A. 臨床実習前に、まとまった形で医療面接・診察技法（例：臨床実習入門など）の学習を行っている。
（15日間）
身体診察の学習に医師や学生以外の標準模擬患者（SP）を導入している。
- B. 臨床実習の実施学年とその期間は（早朝や時間外は省略）
5年の時、1週40時間で、38週間である。
6年の時、1週40時間で、12週間である。
- C. 臨床実習科目は全科目を必修としている。
- D. 大学の附属病院以外の施設（国・公・私立病院や保健所・老健施設などでの実習、国内外を問わない）で臨床実習を行っている。
その期間は全部で4週で、そこで行う実習科目は（臨床実習、クリニカル・クラークシップ）である。
この大学外の実習の場合の交通費は学生が自分で支払う。
- E. クリニカルクラークシップは臨床実習を行うすべての科で導入している。
- F. 臨床実習のための手引書は印刷物として配布されていて、それにはスケジュール、到達目標が記載されている。
- G. 臨床実習の評価として各診療科ごとの評価基準があらかじめ学生に示されている。
臨床実習の評価結果は合否（進級）の判定（総括評価）に用いられる。
そして不合格の場合は、不合格科目のみ再度臨床実習を行う。
- H. 臨床実習中の学生の安全管理対策についてはマニュアルが刊行されている。

6. 学生の海外における実習について

- A. 学生の海外における実習は行っていない。

7. 評価について

- A. 進級判定が行われるのは1年終了時、2年終了時、3年終了時、4年終了時、5年終了時である。
- B. 成績の記録法は点数制。
- C. 卒業判定のための試験は行われていない。
- D. 6年生の10月以降には、国試対策セミナーが組まれている。
また、大学による国家試験対策のための特別な講義が組まれている。
- E. 卒前教育に携わっている教員に対し、教育業績の評価が行われ、その評価を行うのは、学部長・学長、所属長、自己である。
自己評価以外の評価結果は本人にフィードバックされる。
その評価結果は昇進などに関係しない。
- F. 過去2年間に、卒前教育全体に対する第三者評価が行われた。

8. 教員について（医学部・医学科および大学院学生の教育を担当する教員）

A. 教員数（平成19年12月現在）

		教 養*	基 礎**	臨 床***	附属研究施設	その他	合 計
常勤 (有給専任)	教 授	0	10	25	5	0	40
	准教授	0	8	25	3	0	36
	講 師	0	2	45	2	0	49
	助 教	0	16	86	9	0	111
	その他	0	1	0	0	0	1
	合 計	0	37	181	19	0	237

非常勤 (客員・無給を含む)	教 授	0	0	40	0	0	40
	准教授	0	0	32	0	0	32
	講 師	0	21	295	8	1	325
	助 教	0	0	0	0	0	0
	その他	0	0	0	0	0	0
	合 計	0	21	367	8	1	397

- * 教養の常勤者は医学部所属者のみに限る。総合大学で医学部所属者がいない場合は空欄とする。
- ** 基礎は社会医学を含む。
- *** 臨床は附属病院・分院を含む。

- B. 常勤の教員の任期制の制度を取り入れている。
任期制の制度の概要は下記のとおりである。

教授10年、准教授及び講師7年、助教及び助手5年。
再任は1回限りとする。ただし、特別の事情がある場合は、再々任を認めることがある。

- C. 教員や臨床実習時の指導医の医療事故に対する対応策については、取り決められていて、何らかの保険制度に、任意で加入している。

設問9. 学生数（平成19年12月現在）

学 年	総 数		うち学士編入者数	うち今年度留年者数（今年度のみ）	うち休学者数	うち外国人留学生	
	うち女子人数	うち女子人数					
1	81	30	0	0	1	1	1
2	85	26	0	1	1	1	0
3	102	30	20	1	1	0	0
4	103	24	20	2	1	2	0
5	102	33	20	0	0	2	0
6	102	33	20	0	0	1	1
合計	575	176	80	4	4	7	2

10. 平成19年4月（今年）の医学部受験状況（編入は含まず、1年生のみ）

受験者数319名、合格者数83名、倍率3.8倍

入学者数80名、（定員80名、うち推薦入学者数30名）

入学者の状況：現役37名、1浪20名、2浪12名、その他11名、

定員外に別試験で入学した外国人学生1名、

センター試験を導入している。

センター試験で理科を何科目課しているか

2単科目

11. 平成19年（今年）の1年生以外の編入学状況

編入学者数／応募者数

3学年20／517

12. 平成18年4月（昨年）の医学部受験状況（編入は含まず、1年生のみ）

受験者数405名、合格者数81名、倍率5倍

入学者数80名、（定員80名、うち推薦入学者数25名）

入学者の状況：現役33名、1浪20名、2浪13名、その他14名、

定員外に別試験で入学した外国人学生1名、

センター試験を導入している。

13. 平成18年（昨年）の1年生以外の編入学状況

（学士の編入学制度のある大学のみご入力ください）

A. 編入学者数／応募者数 として表示してください。

3学年20／425

B. 編入学者地域わくについて

現在・今後地域わくについてご入力ください。

地域わくがある。

定員数20全体で何パーセントか25%

今後どのように考えていますか。

地域枠入学者の進路状況を考慮し定員の見直しを行う予定である。

14. 授業時間配分

(1) 学期区分

学 年	学期制なし	学期制あり		総時間数		
		2学期制	3学期制	講義	実習	PBL/ チュートリアル
1		○		131.5	45	
2		○		272	432	
3		○		380.5	310.5	270
4		○		942.5	75	
5		○			1600	
6		○		14	430	

(アーリーエクスポージャーは実習時間数に含める。)

(2) 土曜日の授業（講義または実習）は全学年ない

(3) 時間配分の概略図（授業区分のブロック図）

新カリキュラム（総合）

1 年	2 年	3 年	4 年	5 年	6 年
A			E	F	G
	C				
		D			
	B				

(註) A：教養（一般教育）

B：専門基礎科目（医学英語，医学入門実習，基礎事項（コア科目））

C：コア科目（医学一般）

D：実習科目（基礎医学実習，解剖実習，病理学実習）

E：コア科目（臨床系各器官の病態診断治療）

F：実習科目（臨床実習）

G：総合科目

15. 医学専門教育（専門課程）の教科別授業時間数

授業科目名	講義時間数	実習時間数	合計時間数
医学英語	63		63
医用統計学	22.5		22.5
基礎人体科学演習	87		87
臨床医学入門実習		45	45
臨床実地見学実習		45	45
医の原則	43.5		43.5
医療リスクマネジメント	25.5		25.5
チュートルアル		270	270
個体の構成と機能	112.5		112.5
侵襲と生体応答	96		96
病理と病態	45		45
消化器と疾患	60		60
循環器と疾患	64.5		64.5
内分泌・代謝と疾患	64.5		64.5
血液（成人）と疾患	40.5		40.5
呼吸器と疾患	42		42
神経と疾患	46.5		46.5
腎・尿路、男性生殖器と疾患	49.5		49.5
妊娠・分娩、女性生殖器と疾患	48		48
感覚器と疾患（眼科疾患・耳鼻科疾患）	42		42
精神と疾患	45		45
小児疾患・成長と発達	43.5		43.5
皮膚と疾患	21		21
運動器と疾患	22.5		22.5
顎口腔と疾患	19.5		19.5
応用病理	21		21
臨床検査	24		24
放射線診断	22.5		22.5
放射線治療	21		21
臨床薬理学	15		15
救急医学	22.5		22.5
侵襲と加齢	64.5		64.5
症候・病態からのアプローチ	21		21
基本的診療知識	64.5		64.5
基本的診療技能	45	45	90
健康医学	48		48
法と医療	22.5		22.5
発展生命科学	87		87
発展臨床医学	45		45
発展現代医学	36		36
統合基礎医学実習		162	162
人体解剖学実習		157.5	157.5
組織学実習		67.5	67.5
病理学実習	63	72	135
脳解剖実習		18	18
社会医学実習		30	30
診療技能実習（OSCE）		30	30
臨床実習		2000	2000
総合教育演習	14		14
研究室研修		220.5	220.5
合 計	1740.5	3162.5	4903

各学年における講義時間数、実習時間数について

	講義時間数	実習時間数	合計時間数
1 学年	131.5	45	176.5
2 学年	272	432	704
3 学年	380.5	580.5	961
4 学年	942.5	75	1017.5
5 学年		1600	1600
6 学年	14	430	444
合 計	1740.5	3162.5	4903

16. その他の教育内容

独立した科目として授業が行われている科目：

医学外国語（必修）、医療安全（必修）、医の倫理（必修）、臨床医学（必修）

独立した科目として授業が行われていない科目：

医史学、人類遺伝学（臨床遺伝学）、医用（電子）工学、行動科学、医療福祉学（医療社会福祉学）、緩和ケア、医療経済、医療情報学、高齢医学、在宅ケア・介護、プライマリ・ケア、家庭医学、人間関係学、医療保険

18. MD-PhDコースを設置していない。